

中学校部活動・地域移行
あり方検討委員会
第1回 議題(まとめ)

令和6年7月10日

常滑市教育委員会

学校教育課 生涯学習スポーツ課



議題（1）

国や県の部活動に関する
動きについて

1. 背景

○学校部活動は、生徒の多様な学びの場としての教育的意義が大きい

- ・体力や技術の向上
- ・生徒同士や教職員等との好ましい人間関係の構築
- ・学習意欲の向上
- ・自己肯定感や責任感、連帯感の向上
- など

○そのような中、社会・経済の変化等や急速に少子化が進み、学校部活動を今までと同様の体制で継続することは難しくなってきた

- ・少数のため存続できない
- ・専門的な指導者がいない
- ・教育に対する課題の複雑化
- ・働き方改革
- ・教職員が顧問を継続できない
- など

<国の動き>



このような状況を解決するために

○「持続可能な部活動」と「教職員の負担軽減」の両方を実現できる改革が必要とされ、休日部活動の段階的な地域移行を進めることを示した。

⇒「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」策定（令和4年12月 スポーツ庁・文化庁）

<国の考える地域移行の目的>

- 地域や学校によって子供たちの活動の場がなくなるような格差が起きないように、地域の実情に応じ、地域の持続可能で多様な環境を整備することを目指す
- 令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間**として、休日の部活動の地域移行を進める

<県の動き>

- 国が示した目的を達成するため、令和5年6月に愛知県・愛知県教育委員会より自治体向けの部活動の「地域移行・地域連携の進め方に関するガイドライン」が示され、まずは**休日の部活動の段階的な地域移行を図り、環境を整備すること**とされている
- 令和6年度から「あいち地域クラブ人材バンク」制度スタート

議題（２）

学校部活動の現状と課題 について

2. 中学校部活動の現状等整理

(1) 部活動の現状

中学校の部活動は、任意参加の活動として、現在、市内で**83%の生徒が参加**しています。

最近では生徒数の減少により、部活動の種目も限られてきており、令和6年度現在の**各校の部活動の種目**は以下のとおりです。

(人数)

	野球	サッカー	ソフトボール	バレーボール(男子)	バレーボール(女子)	ソフトテニス(男子)	ソフトテニス(女子)	バスケットボール(男子)	バスケットボール(女子)	卓球(男子)	卓球(女子)	柔道	剣道	水泳	陸上	吹奏楽	美術	工芸	PC	創作	科学	家庭	
青海中	22				26	26	26	24	18							15	22						
鬼崎中	23	27	23	42	37	27	36			32	15	31	18	30		37	49	45					
常滑中	28	41	19	38	34	46	37	40	24	40	55	20	19	32	69	60			36	47			
南陵中		37			26	32	16			22	11		18			14					21	20	

(2) 部活動の活動日・時間など

①活動日と活動時間

- ・平日：最大2時間、遅くとも16時45分までに下校
- ・始業前：なし
- ・延長：なし（大会前でも）
- ・休日：最大3時間
- ・その他：大会や試合で休日に終日活動する場合は代替休養日を設定

②休養日

- ・週3日以上の休養日を設定（平日2休、休日1休）
- ・第3日曜日（家庭の日）と学校ホリデーは休養日

③長期休業中

- ・行事を設けない期間（盆、年末年始）は部活なし
- ・夏休みは14日以内

④その他

- ・暑さ指数（WBGT）が31℃以上は活動中止

⇒「常滑市立中学校の部活動ガイドライン」より(令和6年4月 市教委・校長会策定)

(3) 部活動に関する課題等の整理

(①-1) 生徒のメリット

- ・友人関係など人間関係の構築
- ・精神的・体力的・技術的な成長
- ・コミュニケーション能力の向上
- ・学習意欲の向上
- ・自己肯定感や責任感、連帯感の向上

(②-2) 教職員へのメリット

- ・負担もあるが、やりがいがある教職員もいる
- ・生徒の多面性を見ることで、生徒指導力の向上
- ・生徒からの信頼感の向上

※国・県等の各種資料から引用

(4) 部活動に関する課題等の整理

(3) - 1) 生徒のデメリット

- ・ 時間的余裕の減少
- ・ 学業への影響
- ・ 対人関係でのストレス
- ・ 金銭的負担
- ・ 体調不良やけがのリスク

(3) - 2) 教職員のデメリット

- ・ 残業時間の増加原因
- ・ プライベートな時間の削減
- ・ 指導経験がない部活を受け持つストレス

※国・県等の各種資料から引用

議題（３）

休日部活動地域移行の
試行状況について

3. 地域移行（地域クラブ化）の試行

（1）令和5年度の試行状況

A:運動部

①剣道（集約型）

- ・ 3校（青海以外）を1カ所に集約して練習を実施
- ・ 指導者は体育協会指導員や教職員（希望者）

②サッカー（分散型）

- ・ 3校（青海以外）それぞれのグラウンドで練習等を実施
- ・ 指導者は外部指導者、体育協会指導員、教職員（希望者）

B:文化部

①吹奏楽（集約型）

- ・ 4校を1カ所に集約して練習を実施
- ・ 指導者はジュニア吹奏楽団など市内団体の関係者

(2) 令和6年度の試行予定

A:運動部

①柔道（新規）分散型

- ・ 2校（鬼崎・常滑）でそれぞれ練習を実施
- ・ 指導者は体育協会指導員や教職員（希望者）

②卓球（新規）一部集約型

- ・ 3校（青海以外）を2校に集約して練習等を実施
- ・ 指導者は外部指導者、体育協会指導員、教職員

③剣道（継続）

- ・ 分散型の試行も実施

④サッカー（継続）

B:文化部

①吹奏楽（継続）

- ・ 名芸大学生の指導も試行

4. 地域移行（地域クラブ化）の試行

（3）試行での主なメリット

- ・部活動とは違う練習環境で楽しく練習できる
- ・部活動とは異なる相手と練習稽古ができ、刺激になる
- ・競技経験のある指導員からの質の高い指導

（4）試行での主なデメリット

- ・集約型の送迎負担
- ・大型道具の輸送や保管場所
- ・習熟度に応じた練習メニューや指導体制の確保
- ・継続的に質が高い指導ができる指導員の確保・育成

議題（４）

市内で活動する地域団体
について

5. 市内で活動する地域団体

A スポーツ系

(1) 常滑市体育協会（昭和30年発足）

- ①競技部 軟式野球部、バレーボール部、バスケットボール協会、ソフトテニス連盟、テニス部、卓球協会、バドミントン部、ソフトボール協会、サッカー協会、剣道部、柔道部、空手道部、レスリング協会、総合格闘技部、弓道部、射撃部、ヨット部 17団体が活動
- ②振興部 青海支部、鬼崎支部、常滑支部、南陵支部の4団体
⇒総合型スポーツクラブに位置づけ
- ③常滑市スポーツ少年団
剣道(3)、空手道(2)、総合武道(1)、サッカー(5)、ソフトボール(1)、柔道(1)、バレーボール(1)、軟式野球(3)

(2) 任意団体（詳細不明）

軟式野球、バスケットボール、バレーボール、テニス、ヨガなど

※スポーツ系の企業として、アクトスがある（フィットネスを除く）

B 文化系

(1) 常滑市文化協会

美術：絵画、アート、書道、写真など 15団体

陶芸：陶芸 陶芸家など9名

文芸：短歌、俳句など 4団体

洋楽：吹奏楽、コーラス、アンサンブルなど 5団体

邦楽：詩吟、民踊、日舞、三味線、箏曲など 24団体

舞台芸術：チアダンス、ジャズダンス、フラダンス 3団体

創作舞台芸能：歌舞伎、創作舞踊 2団体

茶華道：茶華道 6団体

生活文化：手芸など 2団体

(2) 任意団体（詳細不明）

吹奏楽、書道、ピアノ、絵画、プログラミング教室など

こうしたスポーツや文化に関係する地域団体と調整しながら、受け皿となる団体を模索していく

議題（５）

生徒・保護者・教職員
アンケートの実施について

6. アンケート内容

(1) 児童・生徒アンケート

実施時期：7月中旬（夏休み前）

対象：小学5年生～中学2年生

<アンケート項目>

- ・現在の部活動以外の習い事の状況（スポーツ・文化等）
- ・地域クラブ活動に参加したいか。また、その理由
- ・地域クラブ活動に望むこと
- ・理想の活動時間や活動頻度について
- ・地域クラブ活動で不安や心配なこと
- ・やってみたい地域クラブ活動について

(2) 保護者アンケート

実施時期：7月中旬（夏休み前）

対象：小学5年生～中学2年生の保護者

<アンケート項目>

- ・地域クラブ活動に参加させたいか。また、参加させたくない理由
- ・地域クラブ活動に望むこと
- ・理想の活動時間や活動頻度について
- ・保護者への費用負担について
- ・地域クラブ活動で不安や心配なこと
- ・やらせてみたい地域クラブ活動について

(3) 教職員アンケート 実施時期：7月下旬（夏休み中） 対象：市内中学校教職員

＜アンケート項目＞

- ・自身が指導できる種目の部活動顧問を担当していたかどうか
- ・部活動指導のやりがいや、顧問を引き受けたいかの有無
- ・指導が負担か。その理由
- ・部活動の在り方を変える必要性。学校部活動の課題
- ・地域移行についての理解度
- ・地域クラブ活動に期待すること、心配すること
- ・地域クラブ活動になってから、指導したいかどうか

5 今後のスケジュールについて

6. 「常滑市部活動のあり方検討委員会」のスケジュール

時期	項目	内容
7月10日	第1回検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会設置要領 ・国や県の部活動に関する動き ・部活動の現状と課題 ・休日部の部活動地域移行の試行 ・市内で活動する地域団体の把握 ・アンケート内容 ・意見交換
7月中旬	アンケート実施	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の部活動、地域移行に関するアンケート ・児童・生徒、保護者の部活動、地域移行に関するアンケート
8月21日	教育委員会定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・状況報告
9月～10月	第2回検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・平日の部活動について ・休日の部活動について ・地域移行の手法について ・大会参加について ・活動費について
9月中	学校との調整	<ul style="list-style-type: none"> ・地域移行のあり方（素案）について調整
9月中	地域団体との調整	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体と必要に応じて調整
11月中	第3回検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・方針案の最終まとめ
必要があれば	第4回検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・予備日
12月18日	教育委員会定例会	<ul style="list-style-type: none"> ・方針案の提出、決定
12月20日	市議会協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・方針案を議会へ報告